

報告事項シ

鳥取西道路の整備に伴う発掘調査の現地説明会の結果概要について

鳥取西道路の整備に伴う発掘調査の現地説明会の結果概要について、別紙のとおり報告します。

平成26年8月8日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

1 松原田中遺跡（鳥取市松原）の発掘調査成果、現地公開について

鳥取西道路の改築事業に伴い平成26年4月から調査を進めている松原田中遺跡において、次のとおり現地説明会を実施し、58名の参加がありました。

今年度の当遺跡の調査では、古墳時代後期頃の掘立柱建物や中世の土坑などがみつかっています。

1 現地公開

(1) 日 時：平成26年7月5日（土）

午後1時30分から午後2時30分まで

(2) 場 所：発掘調査現場（鳥取市松原字田中地内）

2 調査の概要

(1) 調査面積：4,820㎡

(2区；1,070㎡、4-1区；3,750㎡)

(2) 調査期間：2区 平成26年4月1日～8月31日

4-1区 平成26年4月1日～11月30日

3 主な調査成果

松原田中遺跡はこれまでの調査で、弥生時代中期～古墳時代前期（2,000年～1,700年前）を中心に、瀬戸内地域との関連のある分銅形土製品、北陸地方との交流が窺われる玉作関連遺物のほか、畿内地方との銅鐸、北部九州との銅釧（どうくしろ）といった青銅製品など広域な地域との交流、つながりを窺わせる遺物が出土しています。

- (1) 今年度の調査では弥生時代中期～古墳時代頃のガラス製の勾玉など、上記を補強する遺物が見つかりました。
- (2) 今年度の調査区では、弥生時代中期～古墳時代前期の遺構が少ないことから、当該期の集落縁辺部であったと考えられます。昨年度までに行った調査状況から、集落の範囲は今年度調査区から西側に東西方向100mほどであったと想定されます。
- (3) 古墳時代後期頃（約1500年前）とみられる掘立柱建物跡、中世（14世紀頃）の土坑等が見つかり、遺跡の中心となる時期以外の遺跡周辺の人々の暮らしぶりもわかってきました。



調査区全景（古墳時代～中世）



勾玉出土状況

2 重山古墳群（鳥取市重山）の発掘調査成果、現地公開について

鳥取西道路の改築事業に伴い平成26年4月から調査を進めている重山古墳群において、次のとおり現地説明会を実施し、90名の参加がありました。

今年度の当古墳群の調査では、古墳時代中期から後期の古墳を4基、弥生時代後期中葉頃の弥生墳丘墓1基の調査を行いました。

1 現地公開

- (1) 日 時：平成26年7月12日（土）午後1時30分から
- (2) 場 所：発掘調査現場（鳥取市鹿野町乙亥世地内）

2 調査の概要

- (1) 調査面積：1,200㎡（A区；400㎡、B区；800㎡）
- (2) 調査期間：平成26年4月22日～7月下旬

3 主な調査成果

- (1) A区には、17号墳と35号墳の2基の古墳があります。墳形は（17号墳；円墳、35号墳；方墳）異なりますが、ともに9m余りの規模で、墳丘で出土した土師器片から古墳時代中期（5世紀代）の築造と考えられます。
- (2) B区には、18号墳（大きさ約9m）と19号墳（大きさ約11m）の円墳2基があります。出土須恵器からともに古墳時代後期前半（6世紀前半）の築造が考えられ、19号墳でみつかった3基の埋葬施設のうち、第3埋葬施設からは碧玉製管玉や水晶製丸玉、小玉が出土しました。

また、1号墓は単独で立地する方形の弥生墳丘墓で、長辺17m、短辺12mの規模で、中心埋葬も長辺3.8m、深さ1.4mと鳥取平野地域の墳丘墓でよくみられる大きさです。供献土器から弥生時代後期中葉（2世紀前半）の築造と考えられます。



A区全景（南から）



B区全景（西から）